

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100368		
法人名	株式会社 都紀		
事業所名	下古賀紀水苑		
所在地	佐賀市東与賀町下古賀69-25		
自己評価作成日	令和2年10月10日	評価結果市町村受理日	令和3年2月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和2年11月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出機会は減ったが、今年度の取り組みとして「個々の願い・想いを汲み取り個別に叶える」取り組みを実施中である。通所利用の妹様に会いに行ったり家族様協力の下、自宅外出したりと個別に外出支援したりしている。今年、自粛生活で季節や時期が分かりづらい状況であったが、リビングから見える田や畑、四季折々の風景、頂いたお野菜、行事などで季節に触れ感じて頂いている。法人内の共同での催しものなど控えたため交流はなかったが、敷地内に同法人のグループホームがある事は安心感に繋がっている。超高齢者がおられるが、一人ひとりのできる事を見極め自立支援に取り組み、入居者様同士も年上の方を敬い、お互い助け合いながら生活されている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で外出制限や家族、地域の方々と会う機会が減った中でも、入居者の願いや思いを叶えるために、感染予防を徹底し、スタッフ一丸となって今できることを試行錯誤しながら懸命に取り組んでいる。それは、入居者の笑顔や喜ぶ顔が見たいというスタッフの思いの共有が行き渡り、それぞれの立場で誠実にケアに取り組んでいるからである。また、その思いは、家族や地域の方々へも波及し、陰ひなたに事業所を支えている。コロナ禍ではあっても、家族や地域の方々との深い信頼関係は、スタッフが入居者に寄り添い、共に歩んできた日々の積み重ねの賜物である。逆にこういう時期であるからこそ、入居者に集う人たちのお互いの絆の強さがより明確に分かる。田園地帯が見渡せるのどかな光がさす窓辺で、入居者とスタッフの何気ない会話の中に、お互いの敬いと愛情を感じる。この事業所で出会えたことへの感謝の気持ち、入居者とスタッフの笑顔の中に映し出されている。また、認知症ケアの意識も高く、気づきの情報共有を大切にし綿密な介護計画の下、日々の実践に活かされている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年4月オリエンテーション時と年2回委員会主催の認知症勉強会時に理念の説明を行い、共有、実践している。フロア、玄関、事務所に理念を掲げ振り返りやすい環境作りをしている。	新人教育や勉強会を通じて、理念の説明と共有を行い実践している。また、日常的に理念の振り返りが行えるよう、目の留まりやすい所に理念を掲げている。スタッフは、入居者との会話の中にも、理念に沿った言動がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に近所の方との挨拶やお野菜を頂いたり、お歳暮で季節の挨拶をしたりと良好な関係を築けている。コロナ禍で地域行事がなくなっているものの交流はできている。	日頃の挨拶や回覧板、野菜をもらったりと、事業所の存在が近隣住民にも浸透している。また、入居者が作ったおはぎを配るなど、良好な関係がある。地域行事の中止の中、日常的な交流の中で関係性を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍で開催されていないが、包括支援センター主催の認知症カフェ参加時や運営推進会議時などで理解や支援方法を伝え活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で中止する事もあったが、例年では議題に関し年間計画を事前に配布し2か月に1回開催。今年は入居者とスタッフのみで消防訓練や敬老会は行ない、その様子を報告。夏祭りは包括スタッフ、家族参加があり報告・話し合いができた。	コロナ禍で運営推進会議を行うのが難しいが、行事参加や日頃のやり取りの中で、事業所や入居者の様子を伝えている。また、通常であれば運営推進会議に合わせ、消防訓練や行事の参加を促し、勉強会も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月お便りを地域包括支援センターに配布、運営推進会議にも参加してもらっている。今年はコロナ禍で開催されなかったが、認知症カフェに参加し、ホームの中だけでなく外部との交流を心がけている。	地域包括支援センターへのお便りや運営推進会議への参加で、事業所の取り組みを伝えている。また、コロナ禍で認知症カフェはできなかったが、認知症カフェで培った行政や地域の方々との協力関係は継続している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員を対象にした勉強会で身体拘束について学んでいる。身体的拘束適正化検討委員会もあり、代表、各苑の管理者で話し合った内容を事業所スタッフに報告・周知徹底。スタッフとも意見交換し拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について勉強会で学んだことを、日々のケアの中で活かし、気になることがあれば、身体拘束適正化委員会などで話し合っている。また、スピーチロックをしない取り組みも行いながら、スタッフに周知徹底し、その場面の振り返りを行い予防している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で学び、スタッフ同士でも話し合い、注意し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者が2名おられ、定期的に勉強会を行い学びあっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い利用者や家族が少しでも不安なく納得して契約や改定をして頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来苑時等意見や要望等を聞くよう努めている。福祉サービス運営適正化委員会のポスターの掲示や意見箱の設置、アンケート調査を実施し表出しやすいようにしている。その結果は会議で報告、検討しケアに活かすようにしている。	意見箱やアンケート調査だけでなく、普段から入居者や家族との関係性を大切に、相談や話しやすい雰囲気を作っている。また、民生委員や地域の方々とも意見を交わし、適宜会議で話し合い、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り、会議、委員会などで意見、提案を言ってもらい反映できるものは取り入れている。	コロナ禍で集まる機会が制限されているが、スタッフ間の相談しやすい雰囲気は損なわず、日頃の話し合いや各委員会の報告、書面等で意見や提言を反映している。また、代表者が個別に面談する機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職務基準表を作成しており、個々の能力や努力を把握し向上心ややりがいをもちながら働く環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で法人内外での研修に参加する機会や集まりは減ったが、苑外研修の情報提供や自施設勉強会の資料提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍において交流は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴、趣味趣向を把握し不安や要望などお聞きし安心してもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な事、疑問に思われている事やご要望をお聞きし、丁寧に説明、少しでも安心してサービスを利用していただけるような信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	導入の相談を受けた時に利用者・ご家族の生活を詳しく聞き、必要なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方通行の介護・支援ではなく、職員・入居者共に共感や協力・助け合える関係を築いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	チームケアの一員として本人と家族の触れ合いを大切にし職員、家族お互いに情報共有し本人を支える関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族協力により自宅外出や本人が会いたい知人や寺社、ストアに外出支援したり、日常的に話題にしたり、年賀状を書いてもらったりと関係性を大切にしている。	週に1回自宅に帰る入居者や会いたい家族、友人、思い入れのある場所などに外出できるよう支援している。また、会いに行けない方にも、年賀状を書くなどして、入居者の思いや馴染みの人との関係性を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や考え方、その時々々の気持ちをなど考慮し、座席の位置や会話の仲介、レク、共同作業の場を設け、他者と関わり合いを持ち、支え合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても入院されている場合は、面会に行ったり、ご家族が収穫したお野菜を苑に下さったり、定期的にボランティア訪問に来て下さるご家族様もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一年に1回利用者ニーズアンケートを取ったり、本人の言動や表情から希望を伺い、上手く言葉で表せない方にも日頃から意向の把握に努め、ご家族にも思いを伺い反映させている。	意思表示ができる入居者からは、希望や意向を聞きながら、日々実践に取り組んでいる。また、意思表示の難しい入居者は、日頃の会話の中で心づきを理解し、家族にも思いを聞きながら把握し実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前の暮らしぶりをご家族や前事業所からできるだけ多く聞き取りし、入居後も本人様、ご家族、面会にいらした親族知人などから話を聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様の能力把握に努め、体調やその時の気分なども考慮してそれぞれできる事をして頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護スタッフ・看護師・ケアマネ・協力病院スタッフと情報共有し話し合いを行い介護計画作成、モニタリングを行っている。	ケアマネジャーと居室担当者が中心に、スタッフ間での気づきの情報共有を大切にし、モニタリングや介護計画に活かされている。また、家族にも介護記録を提示し、情報提供を行いながら、支援の役割を担っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の変化、状態などを申し送りや個別記録、連絡ノートで伝え、スタッフ全員で共有しケア会議で話し合い実践や見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様との日々の会話やご家族様とは面会時の会話やアンケートを通して出来るだけ希望に添える様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報交換などし入居者が安全、安心して豊かに生活できるよう地域との交流や行事参加し楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回協力病院からの訪問診療がある。ご家族希望やご本人様の環境や状態によりかかりつけ医を変更される方もおられる。必要に応じて協力歯科医や皮膚科の往診も来て頂いたり、通院支援も行っている。	協力病院の訪問診療や必要時の協力歯科医、皮膚科往診で情報共有を行い、入居者の体調管理や異常時の早期対応を行っている。また、個々の事情に沿って、かかりつけ医の変更や通院送迎も柔軟に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	細かく情報や気づきを共有できている。健康状態を把握し、協力医療機関看護師に報告・相談し、医師の指示のもと適切な処置・受診ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、管理者を中心に面会可能であればこまめに面会し、ご家族様や病院関係者と情報交換し早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、毎年の家族会の中で説明と意向を確認している。また病院関係者にも受診時などに意向を伝える時もある。重度化や終末期になると改めて意向を確認し、医師を交え支援の方向性を話あっている。	家族には、契約時や家族会などで、ターミナルケアの説明と意向確認を行い、入居者の状態に合わせながら医師を交え、その都度確認を行っている。また、スタッフには、急変時の連絡体制や看取りケアの心がまえ、永眠後の振り返りを行いフォローアップしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年はコロナ禍で救命救急講習は中止したが、勉強会などで知識や対応を学んでいる。応急手当や初期対応がスムーズにできる様身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え定期的に職員全員に連絡が回るよう通報訓練している。消防署・消防団とも協力体制は築けており、近隣住民には実際の災害時での避難協力をお願いしている。	例年は、年2回消防署や消防団参加の訓練を行うが、今年度は、コロナの影響があり事業所のみでの訓練を行ったが、近隣住民に避難時の見守り協力を依頼した。防災に関する環境は整備され、消防署や消防団は、今まで重ねてきた訓練もあり、入居者の状況を把握できている。しかし、夜勤専従者の訓練参加ができていない。	今後は新しく入職した夜勤専従者の避難訓練参加と役割分担した近隣住民と一緒に、避難誘導時の経路確保に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の場面ではプライバシーに配慮した対応を心がけ、自尊心を傷つけないようその方に合った言葉かけや声のボリュームなど注意して対応している。	日頃から入居者のプライバシーに配慮し、ドアノックなど、適宜行っている。また、排泄面では、自尊心を傷つけないような声かけやケアを行い、入浴面では、誘導から洗身、着脱まで一人のスタッフで対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を言葉にしてもらえよう発言を促したり、表情や動作から思いを汲み取ったり、選択肢をあげ、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分を考慮しそれぞれのやり方、ペースに合わせて生活して頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの色味や服装を把握し身だしなみを整えたり、買い物支援時、一緒に服選びをしたりしている。夏祭りでは甚平や浴衣を着て頂いた。訪問理容でも毎回好みの髪型を伺いカットして下さっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍で一緒に買い物に出かけることは難しくなったが、個々の能力に合わせて下ごしらえや洗い物、片付け、テーブル拭きなど作業してもらっている。何が食べたいか等も伺い食事を待つ時間も楽しみなものになるようにしている。	味見や下ごしらえ、食器拭きなど、入居者と一緒に料理を行い、食事の香りも楽しんでいる。また、近所からもらった野菜や四季折々の食事、誕生日、おやつなど、入居者が食べたい物にもその都度対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの健康状態や運動量、口腔状態、咀嚼嚥下などを把握し、形態や量を調節し栄養バランスを考え摂取量、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべくご自分で磨いて頂くよう促しながら能力や場面に応じて、介助したり不十分な場合は仕上げ磨きしている。義歯磨き専用の洗浄剤使用中。歯科居宅療養管理指導によりメンテナンスを受けられている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個々のパターンを掴み、その方の状態に応じてトイレ案内し、不快にならぬよう支援している。日中トイレ使用の方でも夜間はポータブルトイレを設置し安全に努めている。またバルーンカテーテル挿入者でもポータブルトイレで排泄介助する事もある。	入居者の排泄パターンやサインを見逃さず、情報共有を行い、一人ひとりに合った排泄を行っている。また、バルーンカテーテルの方も、ポータブルトイレに誘導することで、排泄面での安心や安楽に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬の力も借りながら日頃よりこまめに水分補給や乳製品、食物繊維の物を提供し、運動や腹部マッサージなどを行い便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本1回/2日、午前・午後と体調や気分に応じて入ってもらっている。身体状態や体力により1回/3日の方もおられる。気分屋的な方には毎日のように誘いかけて工夫し言葉かけしている。体調悪くは入れない方も陰部洗浄や清拭し個々の状況に応じて支援している。	入浴を好まれない入居者にも工夫を凝らし、個々に沿った入浴を行っている。また、家庭的な雰囲気を大切に、入居者の体調面、安全面にも配慮している。また、ゆず湯や菖蒲湯など季節にちなんだ入浴も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や要望、体力、体調を考慮して休息して頂いている。夜間は個人の希望や眠気を伺いながらタイミングを見て臥床を誘い、気持ちよく安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬・臨時薬共に理解・把握に努め状態変化に気掛けている。また誤薬がないよう服薬介助の際には日づけ・名前・○食後の確認をして細心の注意を払い与薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	退屈な日々とならぬよう体操やレクを行ったり、スタッフ手作り遊具を個人やみんなで楽しんだり、個々の能力に応じて家事や得意事、音楽鑑賞や草むしりなど好みや力を活かした活動支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の中いづらか外出支援、外食する機会は減ったがバスハイクは行っている。また個別に姉妹に会いに行ったり、住み慣れた自宅付近をドライブに出かけたり、希望にてお寺や神社参拝に外出支援行っている。	様々な行事や外出機会がコロナ禍で中止となったが、感染予防を徹底しながら、できるだけ入居者や家族の思い、希望を叶えられるよう支援している。通常であれば、入居者や家族の要望に沿った年間計画を立てて、外出支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を個人管理で所持されている方もおり、ヤクルト訪問時出来るだけご自身で購入してもらおうようにしている。(コロナ禍ではスタッフが購入仲介)また、外出や散歩で買い物されたり、スタッフに購入依頼がある。理解・支援できている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の応対時には本人様が代わって話をされたり、難聴の方には仲介をして交流できるようにしている。毎年年賀状を御本人様に書いてもらい返事が届いたりする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは季節の移ろいが見て取れる環境であり、季節を感じて頂けるよう作品や飾りつけをしている。またご家族からも毎月季節感あふれる絵手紙や絵画を掲示させて頂いている。音や採光、においなど配慮し心地よい空間作りに配慮している。	大きな窓からは、田園の四季を感じ、家族が描いた絵画や絵手紙からは、入居者への思いとスタッフへの感謝が伝わってくる。また、スタッフも安らぎのあるリビングを維持できるよう、においや足音、レースのカーテンでの採光の調整などにも気を配っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間であるリビングにいてもソファや椅子の向きを変えることで一人の空間を作れたり、同苑者同士で談話したり、交流が持てる様な配置・空間作りをしている。また、廊下に1脚椅子を置いており、日光浴や休憩場所として活用されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居時使い慣れたタンスやソファ、位牌や遺影を持参されたり、自宅外出時、好みの服や思い入れのある品を持参されたり、家族写真を掲示したりと居心地よく安心して過ごして頂けるようにしている。	入居者が居心地よく安心して過ごせるよう、家族にもできるだけ入居者の家具や思い入れの品を持ってきてもらうようにしている。また、できるだけ自宅での生活と同じ空間をとるため、家具やベッドの位置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入り口にネームプレートを掛け自分の部屋と理解できるようにしたり、トイレ入り口にも張り紙をして分かりやすいよう環境作りをしている。他室を覚えて自発的に交流を図る方もおられる。		